

(様式6-2)

研究成果概要

所属学校名 伊勢市立小俣小学校
職・名前 教諭 黒田 峰

- 1 事業の名前 特別支援教育内地留学
- 2 留学先の名称 三重大学 教育学部
- 3 研究主題 「みんなちがってみんないい」
違いを受け止めることからつながりをつくる
—互いに認め合う仲間づくりを通して—

4 研究成果の概要

本研究では、アスペルガー症候群と診断されたAについて、小学校1年生から中学校までの各担任への聴き取りから、実践を通して見えてくるAと学級の友だちとの関わりの中で、Aが人の気持ちを考え行動するようになった姿を通して、友だちとの関わりから受けた影響と学級が安心できる居場所となる仲間づくりに着目して考察した。

Aに関わった小学校担任や養護教諭・中学校担任及び家族から聴き取り調査を行った。各担任が、Aが学級でどのように過ごしていたか、授業の様子や友だちとの関係について聴き取った。その資料から、各担任が何に焦点をあて実践したかについて整理した。特にAが友だちと関わる中で、相手の気持ちを考え行動できたことに焦点をあてて分析していった。

まず1つ目は、小学校から中学校までの各担任の実践を通して「安心して過ごせる居場所」がつけられたことである。子ども同士が良さを認め合う学級づくりによって、Aは自分を認めてくれる居場所を見つけることができたと考える。その中でAのありのままを認めてくれる身近な友だちの存在により、人を思いやる気持ちが育っていったと考えられる。

2つ目は、A自身が学級で共に過ごす友だちに支えられたということを実感しており、「人との関わりを通して」Aは自分のありのままを受け入れてくれる友だちの存在によって、穏やかな気持ちで人と関わるできるようになったということが分かった。

3つ目の「仲間づくりの重要性」においては、担任がAを含めどの子どもも大切な存在として一人ひとりを大切にする教育を行った中で、子ども同士が互いの良さを認め合えるような仲間づくりをしていったことが、大きく影響したと考えられた。Aと学級の子どもたちとの繋がりの中で、互いが育ち合っていく姿が見られた。

4つ目の「家庭で大切にされているという土台」について、人に対して優しさを発揮できることの根底にあるものだと考えた。両親の理解・協力がAに変化をもたらしたといえる。

本研究において、小学校から中学校の各担任の実践から「安心して過ごせる居場所づくり」「人との関わり」、「仲間づくり」、「家庭で大切にされているという土台」がAの成長に重要な影響を与えたということが示唆された。

